

# 新冠町子ども発達支援センター「あおぞら」 長谷川センター長へのインタビュー

続きまして、新冠町子ども発達支援センター「あおぞら」長谷川センター長のインタビューをご紹介します。  
旧節婦保育所を利用してあおぞらが開設されて6年が経過しました。

センター開設の準備段階から陣頭指揮を執られてきた長谷川センター長に、「開設にいたるまでの経緯」や「子どもの発達」、「具体的な事例」などについてわかりやすく説明していただきましたのでご紹介いたします。



新冠町子ども発達支援センター  
「あおぞら」センター長  
長谷川 徹（はせがわ とおる）  
趣味：私は海釣りです！他にも色々。

### あおぞらの開設

平成23年11月1日、新冠町にようやく新冠町子ども発達支援センター「あおぞら」が誕生しました。  
ここで、あえて「ようやく」と言うのは、子どもの発達についての専門機関が新冠町に整備された時期にあります。

全道的にみると、同様の施設の整備は平成8年度頃には、ほぼ完了してしましました。しかし、日高管内には、新ひだか町と浦河町にあるのみで、管内的に整備が遅れていました。

そのような中、利用者の増加と早期療育のニーズの高まりから、平成23年11月に、新冠町子ども発達支援センター「あおぞら」が開設されました。

### 新冠にきて感じたことは？

私は、もともと苫小牧市立心身障害者福祉センターで勤務しておりましたが、このあおぞらの開設に合わせて、新冠町に移り住みました。

新冠に来て、初めに感じたことは、新冠の人は、親戚が近所にいたり、3世代で一次産業に従事しているなど、家族みんなで関わりをもち、たくさんの方が子育てに関われる環境があるためか、支援が必要な子どもに対しておらかな考え方をもっているように感じました。

苫小牧は、このような環境ではないので、子どもの発達について焦りをもつ親が多かったように感じます。

### 発達につまずきや遅れがみられる状態とは？

みかんを例に説明します。  
みかん全体を子どもとして見立て、中に入っている一つ一つの房が「運動」「認知」「社会性」「言語」など、子どもがもつ力（能力の領域）だと考えてください。

発達のつまずきや遅れというのは、この一つ一つの房が非常に貧弱であったり、異常に肥大していたり、十分に栄養がいきわたっておらず、いびつになるなど、全体のバランスがとれていないイメージです。

### 療育とは

そこで、そのみかんの房を調べて評価し、栄養不足の房には水や栄養剤を与え、バランスが悪ければ光の当て方を変え調整するなど、何らかの手を加え、健全な発達へと支援する関わりが療育（療育支援）です。

このように、私が考える療育とは、「発達につまずきや遅れがみられる子どもが、社会でよりよく生きていくために必要となる基礎的な力を育てること」で全体的にバランスのとれた成長を促そうという考え方です。

### 想定される事例と関わり

皆さんは、赤ちゃんが泣いていたら、抱っこして、揺すりながらあやしますよね。大抵の赤ちゃんは、これ心地よくなり泣きやみます。

しかし、赤ちゃんが泣いて、抱っこしてあやすとますます泣く。そして、もっと強く揺ると、さらに強く泣く状況であれば、親は戸惑い不安を覚えてしまいますよね。

普通、揺れる刺激は、赤ちゃんにとって心地が良く、また、赤ちゃんが泣いたときに抱っこして揺らすことで親子の関係が育まれていきます。

しかし、もし、その赤ちゃんが「揺れる刺激が苦手」な子どもだとするとどうでしょうか。

親がその赤ちゃん自身の特性をわからず、赤ちゃんを揺らし続け子どもが泣き続ければ、結果として、親の不安と疲労が蓄積され育児不安となり、親子の関係も育まれません。

今は、ネットや育児書などで色々な情報を得ることができますが、この事例のように、その子どもが持つ特性を踏まえた、具体的な対応策を調べることは容易ではありません。

もし、皆さんが子育てで不安なことがあるありましたら、あおぞらにご相談ください。あおぞらでは、専門知識と療育支援経験があるスタッフが子どもの状態を観察し見極め、親の意見も聞きながら日常生活でも取り組める療育プログラムを提案します。

相談することで、子どもの状態や特性を知ることができ、また、親が育児に対する不安や疑問を減らすことで、前向きに子育てができるようになります。

### 今後のあおぞらについて

私が保護者の方々とお会いするのは、乳幼児健診の発達相談の機会が多いかと思えます。

健診の場で、発達相談をすることに、戸惑いを感じる方もいるかもしれませんが、親が子育てに不安や疑問を抱き、精神状態が不安定だと、子どもも不安になり、親を信頼できなくなり結果として、愛着を形成することができなくなります。

このような悪循環に陥らないためにも、どんな事でもよいので気軽に相談していただければと思います。  
あおぞらは、子育てしやすいまちづくりを進めるため新冠町が開設した待望の施設です。また、新冠町の方は施設を無料で利用できます。

町内には、またまた子どもの発達について不安や心配を感じながら子育てをしている方がたくさんいると思いますので、そのような方は、ぜひ一度、あおぞらに電話で相談して下さい。

お話しをする中で、子どもにとって親にとってもより良い子育ての方法がみえてくると思います。

今月号に掲載を予定していましたが「子育て応援隊の紹介」は、掲載スペースの都合上、来月号にさせていただきます。



## 新冠町子ども発達支援センター「あおぞら」

- ・スタッフ  
センター長 1名  
言語聴覚士 1名  
療育指導員 1名  
発達相談員 1名  
保育士 2名
- ・開園時間  
児童発達支援（未就園児・幼児）  
月～金 9：30～14：00  
放課後等デイサービス（小中学生）  
月～金 15：00～17：20  
発達相談  
月～金 10：00～16：00

・問い合わせ 新冠町字節婦町 117 番地の 1  
☎ 0146・47・1522 FAX0146・47・1523



開設から6年が経過して  
6年が経過して、地域の方に少しずつあおぞらの役割を理解してもらえようになつてきたと感じていますが、その結果として、あおぞらに対する親の考えが大きく二つに分かれてきたように感じています。  
具体的には、あおぞらが行う「早期療育」を理解し、積極的に利用したいという家庭と、おじいちゃんやおばあちゃんなど家族みんなで子どもに関わることで子どもが十分成長していくので、あえてあおぞらを利用する必要はないと考える家庭に分かれて来たように感じています。

### 子どもの発達とは何か

生まれたての赤ちゃんは泣くことしかできない状態から、首が座り、寝返りをするようになり、お座り、ハイハイをして、歩行ができるようになります。また、これと同時に、欲しいおもちゃをつかんだり、身振りを使い自分の意思も伝えられるようになるなど、この時期に生きていくために必要な基本的な力（能力）を身に付けます。  
このように発達とは、赤ちゃん自身が生まれながらに持つ力と子育て環境との相互作用の中で、頼りない状態から、色々なことができるようになっていくすじ道と状態のことだと考えています。